

派遣報告書

平成 24 年 5 月 2 日

東京外国語大学総合国際学研究所博士後期課程

ザブランナ・オレスト

1. 派遣経費 ITP-EUROPA 短期派遣
2. 派遣目的 研究用のデータ収集、先行研究の把握、研究結果の発表
3. 派遣先 ウクライナ タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学 (キエフ)
イヴァン・フランコー記念リヴィウ国立大学 (リヴィウ)
5. 派遣日程 平成 24 年 3 月 3 日 ~ 平成 24 年 4 月 25 日
6. 派遣期間中の活動の概要

「働きかけ言語行動に関する一考察—日本語とウクライナ語 20 代母語話者を対象に—」という題目で博士論文を完成させるために、派遣期間中以下の活動を行った。

タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学およびイヴァン・フランコー記念リヴィウ国立大学に在学している学生のなかで募集を行い、談話完成テスト法を用いた調査を実施した。

被験者の人数、内訳は以下の通りである：

文学部 女性 22 人、男性 3 人

電波物理学部 女性 4 人、男性 21 人

建築学部 女性 6 人

合計人 56 人 (男性 24 人、女性 32 人)

この通り、必要な「依頼・要求」の表現のデータ数を集めることができた。

また、分析方法について言語学院中国・朝鮮・日本学科のイヴァン・ボンダレンコ教授に面談し、日本語とウクライナ語との対照・比較という観点からデータの解釈、分析方法について指導を受けた。

ウクライナ語における言語行動の特徴、とりわけ「依頼・要求」が考察の対象となった語用論的な研究の最近の動向を調べた。特にタラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学で執筆された

Dmytrenko, O.L. (2009) *Dyrektyvni movlennievi akty v publicystychnomu dyskursi* (新聞記事における行為指示型の諸発話行為について) の博士論文を閲覧できて、ウクライナ語における指示型の緒発話行為の違い、その特有のモダリティ形式、形式の語用論的な転移に関する分析が参考になり、博士論文の第1章で取り上げるつもりである。

また、3月24日—25日に開催された第4回全ウクライナ国際公開シンポジウム（ウクライナ日本研究会とタラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学言語学院共同主催）にて博士論文の一部を発表した。

発表を基にまとめられた論文（『「改善要求」に見られる働きかけの仕方に関する一考察』）はタラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学言語・文学部紀要に採用されて、9月に出版される予定である。



キエフ大学外観



シンポジウムで発表（質疑応答）



ボンダレンコ先生と